



内閣府（防災担当）

相模トラフ沿いの巨大地震等による長周期地震動 検討会（第4回）議事概要について

1. 検討会の概要

日 時：平成29年3月8日（水） 10：00～12：00

場 所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：平田座長、入倉委員、北村委員、小鹿委員、久田委員、古村委員、
翠川委員、三宅委員、

2. 議事概要

三宅委員から地震波干渉法を用いた長周期地震動シミュレーションについて、久田委員から平成28年熊本地震の震源近傍における長周期地震動の特徴について話題提供いただいた後、長周期地震動の検討手法等について議論を行った。概要は、以下のとおりである。

- 熊本地震における地盤の非線形性を評価するにあたっては、まず、線形構造で規模の小さな地震の観測記録が再現できることの確認から始める必要がある。また、熊本地震の本震だけでなく、2日前の前震や最大余震についても非線形性の影響を検討が必要である。
- 熊本地震の震源近傍で観測された長周期地震動については、大部分が大きな静的変異（フリングステップ）で説明できるとの研究成果が報告されている。
- 相模トラフ沿いの過去の巨大地震の被害調査結果から、長周期地震動による被害を抽出することは難しい点もあるが、例えば、小田原では家が大きく移動したことや、体感として長時間揺れが継続したといった記録が残っており、参考となるのではないかと。
- 一般的に地震動は、突き出た地形部分ではよく揺れ、逆に凹んだ地形では揺れにくいとされている。有限要素法を用いて地形を考慮した推計を行う際には、この一般的な考えとの整合も評価してはどうか。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当企画官 森本 輝

同参事官補佐 池田 雅也

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-6820